

反対なぜ届かぬ

7/17 朝日

抗議デモ 可決後も

安全保障関連法案をめぐる疑問や懸念は116時間を超える審議で解消したのか。これまで審議の行方を追ってきた「ウォッチ安保国会」。紙面に登場してもらった人、審議の行方を見つめる人たちに聞いた。安保法案は分かりましたか？ 参院ではどんな議論が必要ですか？

ウォッチ 安保国会

衆院本会議で安保法案が可決された16日の午後、国会周辺は時折強い雨に見舞われた。だが、前日と同じように多くの市民団体メンバーや若者が集い、「戦争させない」などと書いた紙を掲げた。



安保関連法案の衆院通過に抗議し、大勢の人たちが国会前でのデモに参加した=16日午後6時31分、東京・永田町、杉本康弘撮影

その群衆の中に主婦の竹田昭子さん(58)はいた。先月15日、高知市であった衆院憲法審査会の地方公聴会で「意見陳述者」として参加。安保法制について触れ、「憲法は権力者側で都合よく変えてはいけない」と訴えた。6人の陳述者のうち竹田さんを含む5人が安保法案に「反対」や「慎重」の立場を示した。しかし、それから1カ月

後、衆院の特別委員会では採決が進行され、可決された法案は16日の衆院本会議でも通った。「市民の代表」として述べた意見は事実上無視される形となった。東京を訪れたのは私用だった。16日は高知に飛行機で帰るはずだったが、台風11号の影響で欠航。「それならば」と思い、国会前に足を運んだ。抗議の声を上げる人々を見て、「なぜ

国会に届かないのだろう」と改めて感じた。安保法案の審議は衆院の特別委で116時間超。竹田さんは言った。「戦争への参加が可能になる法案なのに、核心部分の質問を安倍首相はいつもはぐらかしているように聞こえた」

「起立多数。よって可決いたしました」。午後2時すぎ、採決を終えた大島理森・衆院議長が散会を告げる頃、国会正門前には数百人の市民が集まっていた。雨にぬれながらネット中継で採決を見守った菱山南帆子さん(26)は東京都川崎市の障害者施設で働き、仕事の合間に集会に参加してきた。「私たちの思いと国会の決定の間にある落差」にショックを受けたという。安保関連法案の審議が5月下旬に始まってからひと月半。問われてきたのはこの「落差」だった。

ひとつは政権と憲法学者の落差。6月4日の憲法審査会に呼ばれた参考人が

記した赤いノートは36頁になった。「質問と回答がみ合う感じが最後までなかった。もっと質の高い議論ができなかったのかな」政治家の生の声が聞きたかったが、自民党は所属議員に討論番組「朝まで生テレビ」への出演をとりやめさせたり、TBSのアンケートに答えないよう指示したり。「戦争法案という人もいるけれど与党は戦争がしたいわけではない。でも、どうやって国民を守り、どんなリスクがあるのか、伝わらなかつたと思う」

採決と世論に「落差」

衆院での審議を「基地の街」で暮らす人々はどうとらえたのか。海上自衛隊の基地がある広島県呉市で幼い2人の息子を育てる主婦石黒聡子さん(48)は「法案の内容が難しかった。自衛隊の活動範囲が広がることには賛成だが、米軍機が頻りに来ることで事故が起きないか心配」と話す。小売業の藤井聖規さん(47)は「中国や北朝鮮の脅威があるんだから、自衛隊も普通の軍隊として仕事できるようにしなきゃ」と言う一方で、「国会を見てもクル

クル客弁が変わる。法案が100%わかった人なんかいないんじゃないか」とみる。空自小松基地(石川県小松市)の30代の隊員の妻は「国民の多くから理解が得られていないとしたら、もっと慎重に進めたほうが良い」とし、陸自の二つの駐屯地がある兵庫県伊丹市のラーメン店長の石田雅巳さん(38)は「安倍首相は隊員一人ひとりの生命を考えているのか。戦後70年、不戦の誓いが風化している」と話した。

法案を「憲法違反」と指摘するなど、大多数の研究者の懸念を政権は突っぱね続けた。この後、世論調査でも法案への疑問が広がった。

16日、本会議の採決を退席した民主の辻元清美氏は「これほど国会の中の光景と、国会の外の国民の声がかげ離れて聞こえた経験はありませぬ」と語った。辻元氏は審議を振り返り、「総理は何をしてもいいとお考えなら、勘違いされているのでは」。本会議場の約4分の1が

空席のまま法案を可決した後、自民の武井俊輔氏は「気持ちとしては今日の空のような、晴れやかな」とかとは遠い」と漏らした。世論との落差を埋められない理由を、「マスコミを『懲らしめる』発言などもあったが、何より我が党の平和主義、憲法9条を大事にしていく姿勢が、国民の皆さんから疑われていること」と感じる。「国民の間には、どこまでいくか分からない不安がある。参院の審議では、今回の法案でやることが限界だと示さないといけない」と話す。